

## リアルタイム線量測定システムの配置の見直しに関する住民説明会（金山町）

### 議事録

日時：平成30年7月27日（金）18：30～

場所：金山町開発センター3階大会議室

#### 議事

○南山総括調整官 それでは、お時間となりましたので、リアルタイム線量測定システムの配置の見直しに関します住民説明会を、この金山町で開催させていただきます。

本日は、お忙しい中、またお暑い中をお集まりいただきまして感謝申し上げます。大変ありがとうございます。私、進行役を務めます原子力規制庁の南山と申します。よろしくお願ひいたします。

原子力規制庁、今日、参っておりますのが、真ん中から武山課長でございます。それから滝田補佐、それから河村専門官、それから鈴木専門官、それから伊藤でございます。よろしくお願ひいたします。それから、本日、金山町役場の皆様にも大変、御協力いただきまして、この会を開催することができました。大変ありがとうございます。大変お世話になります。

本日の説明会では、皆様、お手元の資料に基づきまして、まず原子力規制庁、武山のほうから説明を申し上げます。その後、質疑応答とさせていただきます。なるべく多くの質問、意見等をいただきますように、規制庁といたしましても簡潔かつわかりやすく御説明に心がけたいというふうに思っております。また、皆様にも実のある会となりますように、ぜひ御協力のほうをお願ひいたします。限られた時間ではございますけれども、開始させていただきたいと思っております。

なお、本日の説明会、フルオープンで規制庁としては開催しておりますので、本日の説明会につきましても、この説明会の様子につきまして記録し、後日、規制委員会のホームページのほうに掲載をする予定としてございますので、あらかじめ御承知おきいただければというふうに思っております。

それでは、まず、原子力規制庁の監視情報課長、武山のほうから、この資料に基づきまして御説明を申し上げます。よろしくお願ひいたします

○武山監視情報課長 金山町の皆様、こんにちは。私、原子力規制庁監視情報課長の武山

と申します。

お手元の資料を1枚めくっていただいて、3ページ目、「はじめに」というのがございますので、こちらから、まず御説明をさせていただきたいと思っております。

ここに「今後について皆様と一緒に考える会」と、こう書いてございます。皆様も御承知のとおり、福島第一原子力発電所事故、これが起きて直後、我々のほうとしては、線量をはかって状況を継続的に見るということが重要と考えまして、数多くのモニタリングポストを設置させていただきました。現在、いわゆる帰還困難区域とされているところ以外の区域のところ、そういったところについては、大分、線量が下がってきています。その中でも安定して推移しているところというところがございまして、いわゆる事故当初とは放射線量の状況が変わってきているということがいろんなデータにも表われているところでございます。

また、行政上の課題として、今日、御説明させていただきますモニタリングポスト、こういったものについては、どうしても設備の耐用年数だとか、あるいは現実的には予算のことも考えなきゃいけないということでございまして、我々としてはいろいろと、そういうことも考えて、将来、どうしたらいいかなということを考えているところでございます。

私たち、やはり、いろんな状況が変われば、やり方も変えていくということが必要なかなというふうに考えていまして、今、言ったような状況の変化ということを考えたときに、今後、どうしたらいいかなということでございまして、今日、一つ、我々のほうの提案という形でお示しをさせていただきますが、その提案だけではなくて、皆様はどうお考えなのかなということについて率直な御意見、これをお伺いしたいというふうに思っているところでございます。したがって、今日は皆様からいろんな御意見をいただいて、今後、我々のほうで、このモニタリングポストの扱いについて、どうしていくべきかということを考える一つの基礎的な情報というふうに考えておりますので、どうぞ皆様のいろんな御意見をいただければと、こう思っているところでございます。

次のページをお開きいただければと思います。福島県内の放射線監視体制ということで、赤いポツだとか、いろいろ点がございます。今、我々のほうのモニタリングポストというのは、およそ、これだけの数、実は配置をしております、赤いものがリアルタイム線量測定システムと言われているものでございまして、これは全県的には2,900台余り入っています。あと、それ以外に緑色のポツがありますけど、可搬型モニタリングポストと言われているものです。これが570台余りですね。あと、水準ポストと言われている四角で囲

っているところがございますけど、こういったもの、これは台数が少ないですけど12台ありまして、監視ポストというのが、また、それ以外に39台。

まず、赤い丸は、これは学校とか保育園とか、そういうところについているものでございます。それから、緑色のもの、これは福島県の全域をカバーするように、ある程度の距離ごとに置くという形で置いているものでございまして、公共施設とかが大体多いと思えますけれども、そういうところを中心に、ある程度、満遍なく見れるような形で置いているというのがございます。

それから、青い印ですけど、これは水準ポストと言われているものなんですけれども、これは日本全国、実は各都道府県にモニタリングポストがございまして、このポストを各県との間で比較をするという形で置いているものでございまして、それが福島県に関して言うと12台あるということでございます。それから、監視ポストというのが、これは福島第一、第二原発があるわけですけども、その周りに置いておいて、そこで何かあったときに、そのポストで検知をしているんな措置をやるというものでございまして、いわゆる原発の監視用というものでございます。

これ以外に、実は、我々、これは国もしくは、上の三つは国なんですけれども、あと三角で書いたやつ、これは福島県のほうで整備しているものなんですけど、それ以外に、また福島県さんが整備しているものがプラスで104個ぐらいあったりとか、あるいは市町村、これは主に浜通りのほうですけども、そちらのほうに50台余りの赤いポストのようなものが追加であったりとかするというものでございます。

それから、次のページを開いていただきますと、金山町にあるポストということで御紹介をしております。まず、リアルタイム線量測定システムと、こうあります。メーカーは二つのメーカーがございましてけれども、両方合わせて10台あります。先ほど申しましたように、これは子どもが活動する施設、学校など、そういったところについての施設のいわゆる放射線のレベル、そういったものを把握するというで置いているものでございます。特徴的には、まず、これは一つは太陽電池、上に太陽パネルがございましてバッテリーがついているということで、昼間は太陽電池で動いていますので表示がついているわけですね。赤い表示がついていますけれども、夜になると太陽電池が太陽がなくなってしまうので消える形になっていますけれども、こういったものでございますと。

それから、もう一つ、次のページ、可搬型ポストというのがございまして、可搬型といっても、実は、写真でいいますと下に白い四角いものがあると思えますけれども、下のほ

うにですね、ここが、ある意味、本体になりまして、基本は、何かあったときに、それを持って行って、好きなところに据えつけてはかるというものがもともとの出発点なんですけれども、ここは据えつけられていて太陽電池もついているという形、バッテリーもついていますということで、そういうポストを据えつけた形で置いていますというものでございまして、3台ありますということでございます。

先ほどのリアルタイム線量測定システムのところ、誤差がプラスマイナス20%以内とか、あるいは測定の範囲がこうだと、いろいろ書いてありますけれども、実は、リアルタイム線量測定システムのほうが測定範囲が低いレベルのところをはかることになっていて、ちょっと誤差も可搬型ポストよりは少し広目になっていると、多くなっているという特徴がございまして。リアルタイム線量測定システムのほうは、先ほど言った福島第一事故が起きた後に、学校の汚染、放射性物質が降っていて、それによって線量がどのぐらいかということを見ているので、主にセシウムですね、セシウムが付着をしたものに対して線量をはかるということで、そういったことにすぐれたものということでございます。

一方、可搬型ポストと言われている、先ほど私のほうで説明した3台でございまして、これは、ちょっと単位も違う単位が書いてありますけれども、基本、リアルタイム線量測定システムと同じレベルというか単位かと考えていただいたら結構なんですけれども、ちょっと幅広い、10万と書いてありますけれども、幅広い線量まではかることができるということでございます。あとは、その中でも低い方のレベルについては、より性能がいい、精度がいいという特徴がございまして、これは、先ほど私が説明した学校などに置いているものはセシウムに、むしろ着目してということでございます。

それ以外にもいろいろ放射性物質というのは、ヨウ素だったり、事故が起きるといろいろなものが飛んできますけれども、そういういろんなものに対して、より正確にはかれるようにということで、いわゆる、先ほど私が申し上げた原発の監視用に使っているポスト、それと同じような性能を持っているものでございまして、そういったものが3台ありますということでございます。

それから、こちらの町にはないんですけれども、先ほど言った水準ポストと言われているもの、これもありますけれども、これは、ほかの町とかにもあるんですが、これは線量が低いところ、低いレベルのもの、先ほど言った全国、ほかの都道府県と比較するということなので、基本、低いところの線量をはかるというものでございまして、低いところについて精度よくはかるというような特徴があるものがまだほかにもあったということで

ざいます。

それから、7ページ目、開いていただきますと、金山町の先ほどのリアルタイム線量測定システム10台、赤いぼつぼつとあったところが10台あるわけですが、その平均空間線量率の推移と書いてありますけれども、いわゆる放射線のレベルですね。ここで青い帯が示されていると思いますけど、これは47都道府県、もともと水準ポストというのは47都道府県、おのおの全部、大体、県庁所在地を中心に1基ずつ設置されていたわけですが、その事故以前、福島の事故以前の17年間の測定値です。その1日の平均値の範囲を示しております。

この範囲、一番低いレベルですと、大体、青森県が低いんですけども、0.01ぐらいになりますし、一番大きいやつは西日本にある山口県、これが0.115というレベルなんですけれども、この間の帯を書いているわけですが、その帯がございまして。緑の点が、これが金山町の線量のものでございまして、これも先ほどの10台のやつの平均をとっています。10台の平均をとって、それをこういう形でグラフ化するとこういうレベルになっているということで、平均ではありますけれども青い帯の中に入っていると、いわゆる全国水準の範囲に入っているという状態になっているということでございます。

それから、次の8ページでございまして、これは今度は10台のポストを1個1個、これを昨年の4月から今年の3月の1個1個の平均というのをとってみたいというものでございまして、これ棒が出ていますけれども、見方は、下が放射線のレベルを示して、値を示して、一番高いもので0.07～0.08の間のもので3個ありましたということでございまして、これより低いレベルのものであるということを示しているところでございます。

それから、9ページに行きますと、今まではモニタリングポストの値がどんなふうになっているのかなということを御説明させていただきましたけれども、今度は福島第一原発の現状でございまして。これは、今、これからいろいろ福島第一原発も廃炉作業をするので、まだ、実は、どういう作業をするかということがわかんない状態なので、将来的にどうなるかということにはちょっと言えないんですけども、今の現状ですね、まさに今の状態ということを一応、示しています。

特に、今の状態でも、例えば、いわゆる放射性物質が飛散をするということに対する現状でございまして、まず、原子炉建屋、事故で一部破壊されて、むき出しになったりとかしていますけれども、それでガス状の放射性物質というのがやはり微量、出てき

ています。そういうものに対して、我々としては、それを集めたりとかしているわけですが、管理をしているわけですが、そういうものに対して、一応、線量をはかっています。放射能をはかっている結果として、大体1年間なんですけれども、1年間で福島第一の原発の敷地の境界では0.0005という、ちょっと長い数字ですけれども、いわゆる皆さんがよく言われている1mSv、1mSvに対して1万分の5というレベルということでございますので、相当低いレベルで今は落ちついているところでございます。

それから、がれき撤去だとか使用済み燃料の取り出し作業、これから3号機が使用済み燃料の取り出し作業を行うわけですが、今まで4号機とかも行って来たわけですが、基本、今の現状では大気中の放射性物質の濃度というのが他の原発と同じようなレベル、法令基準以下ということにおさまっているということでございます。

それから、今まではこういう現状だとかということの御紹介で、10ページで、これで、実は、我々、こういう現状を踏まえて、このようにしてはどうかという一つの案でございます。これが見直しについてというものでございますけれども、先ほど言った赤いポツ、赤いポツじゃなくても、例えば緑だとか四角の青いやつ、あるいはダイダイの三角、緑とか四角とか三角の、これは維持をしようと思っています。これは、もうずっと維持をしたいと思っていて、赤いものですね、赤い、いわゆる学校、保育園とかに置いてあるものなんですけど、これについて、先ほど私のほうで説明しました、線量が大分、落ちついているということもございまして、また、言ったように測定器にはやっぱり寿命があったりとかしますと。あとは予算の問題もありますということでございまして、少し、そういう赤いポツの測定の範囲を縮小して、もうちょっと合理的にしてはどうかというのが提案のイメージでございます。このような形でやって、放射線の監視体制は全県的にはきちんと継続するわけですが、少し数を縮小してはどうかというのが今回の御提案になっております。

あと、我々のほうで、もう一つ、11ページにありますけれども、ハンディーな線量計、これを市町村に貸し出しをしているところでございます。金山町さんのほうには今、実は6台、貸しておるんですけれども、こういうようなもの、皆さん、御覧になったかもしれませんが、ボタン一つで計測できるというものでございまして。これ、モニタリングポスト自体は、ここに固定されていますので、そこの固定されている周りのところの放射線量はわかるんですけど、どうしても違うところは距離が離れちゃうとわかんなくなっちゃいますので、そういうものに。ちょっと懸念があって、例えば、こういうところをは

かりたいなどいう場合には、こういうものをお使いになってはいかがかということ貸しておるところでございます。このようなものがあるということをお承知おきいただければと思っております。

今回、こういう形で一つの提案みたいな形で示させていただきましたけれども、この後、質疑応答で皆様がどのようにお感じになっているか、この案に関してだけじゃなくても結構ですけども、もともと皆さんが今、モニタリングに関して、どうお考えになって、どうお感じになっているかということについて、率直に御意見をいただければというふうに考えているところでございます。

また、次の12ページですね、今日、いろいろ御意見をいただきますけれども、後で帰ってみて、ああ、こういうこともあったなとかということがあるようなこともあると思います。そういうものに対して、我々のほうでフリーダイヤルを設けております。こういうところでお問い合わせをいただければ対応させていただくということになっていきますので、よろしく願いいたします。

私からは以上でございます。

○南山総括調整官 それでは、質疑のほうに移りたいと思いますが、なお、今回、お配りいたしました資料を一部訂正をさせていただければと思います。一番最初の紙の2枚目なんですけど、本日のスケジュールでございます。広報上、今日は20時までということで御案内していたかと思っております。ちょっと、このつくりました資料、20時半となっております。もちろん時間の許す限り、させていただきたいとは思いますが、一応、目安としましては本日20時までということでさせていただければというふうに思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、皆様方から、この資料以外のところでも結構でございますので、御質問または御意見等いただければと思っております。どなたでも結構でございますので、挙手をさせていただいて、御質問、御意見等、述べていただければと思いますが、いかがでしょうか。どうぞ。

○参加者 基本的なことをちょっと教えていただきたいんですけども、5ページのリアルタイム線量測定システムの単位は $\mu$  Sv/hです。6ページの可搬型モニタリングポストの測定の単位は $\mu$  Gy/h、この違いって何なんですか。

○武山監視情報課長 お答えいたします。まず、Gyという単位のほうなんですけど、これが実は一番基本のものでございまして、いわゆる空気に吸収されるエネルギーの値になり

ます。1kg当たり、どのくらいエネルギーを放射線でもって空気が吸収しているかというものでございまして、それを、いわゆる人体への影響というのを考えて少し換算をするんですね。換算をすると、Svという単位になるわけですがけれども。だから、基本、我々、被曝を考える上ではSvというのがベースになるわけですがけれども、先ほど言ったGyとSv、この関係は、実は、ほぼ、ほぼ大体同じだと考えていただいて結構です。

実は、放射線もエネルギー、いろんな放射性物質から放射線が出るわけですがけれども、放射性物質によって出る放射線のエネルギーというのはいろいろ違ってきています。そのエネルギーの違いによって、実は、例えばGyというものに対してSvを換算するとき、少し換算係数が変わってきたりとかします。そういったものを、大体、1を中心に大きくなったり、ちょっと小さかったりするわけですがけれども、そういうふうなことがあります。ただ、大体、オーダー的には、もう大体、同じぐらいだと考えていただいて結構だというものでございます。

○南山総括調整官 よろしいでしょうか。

どうぞ。

○参加者 要するに、放射性物質のそのもの持っている能力と、それが人体に与える影響ということで単位が違うというふうに理解してよろしいんですね。

○武山監視情報課長 そうですね。大ざっぱに言うと、そんな感じになります。

○参加者 それから、もう一つ、大丈夫ですか。

○南山総括調整官 どうぞ。

○参加者 7ページの放射線量の状況ですがけれども、季節的な変動、顕著な季節的な変動がありまして、全体的には低下傾向にあるということは、このグラフによって十分読み取れます。季節変動は、これは雪による遮蔽効果だと思いますけれども、一体、金山町の原発事故以前の平均空間線量はどうだったんでしょうか。それと比べて、今現在、高いのか低いのか、それをお示しいただきたいと思うんですが、いかがでしょうか。

○南山総括調整官 事故前のことが、どうだったかということですね。

○武山監視情報課長 お答えします。残念ながら、事故前はモニタリングポストが、たしか、ないので、わからないんですね。ただ、いつも言われている、ここに書いてある、そういう意味で、実は、各、全国の平均というの、大体、この幅に、大体、どこの、我が国の国土において、この幅に大体、入っていると。事故前ですね。ということで、実は、これを我々としてはベースとして考えているところではございまして。実は、事故前はポス



トがないので、はかっているものではないので、わからない。ただ、先ほど言ったように、もう全国的にこのレベルに、これ事故前です、しかも事故前ですので、事故前のレベルがこの青い線に入っているということですので、これをやはり我々としてはベースとして考えるのではないかというふうに思います。

○河村上席専門官 モニタリングのほうをやっています、河村と申します。確かに、事故前に金山町にポストはなかったんですけども、ただ、1960年代から70年代にかけて、ちょうど諸外国で大気圏核実験が行われていたときに、日本への影響を見るということで全国的にサーベイメータをもって調査をした研究機関がありまして、そのときの空間線量の値を見ますと、大体0.05から、西日本が高いんですけど、0.1何ぼぐらいの間の $\mu\text{Sv/h}$ ぐらいの間にあるので。

なので、私もそのデータを見たことがあるんですけど、福島県内でも、やっぱり天然の放射性物質の影響があるところも、例えば石川町とか、若干、高いところもあつたりします。そういう意味でも、やっぱりレベル的には0.05から0.1 $\mu\text{Sv/h}$ ぐらいの間の中に入っているというふうに認識しておりますので、なので、このグラフを見ていただいたとおりでございまして。なので、今の恐らく金山町のポストのデータですか、8ページの棒グラフがありますけれども、これで見ても最大で0.08 $\mu\text{Sv/h}$ ぐらいなので、桁で言うと、多分、事故前と同じ桁にあるのではなかろうかというふうに思っています。

○南山総括調整官 よろしいでしょうか。

○参加者 概略、わかりました。

あと、最後にもう一つ、お聞きします。福島第一原発の事故は大変不幸な出来事だったと思いますけれども、あの事故が起きた原因は、まさに安全神話、事故は起きないものだという前提が進められてきたということにあると思います。9ページにもありますけれども、がれき撤去や燃料取り出し作業が行われても、法令基準以下になっていることを確認と書いてあります。今までは、そうでした。今後ともそうであるということは、誰が保証、誰も保証できませんよね。

これから何十年と、がれき撤去、それから廃炉作業をしていくわけですね。その中で、どのような状況になるか、どのような事故があるか、これは誰もわかりません。そのときの放射線の状況を確認すると、分布状況も含めて確認するということからすれば、果たして、ここに「見直し」と書いてありますけれども、要するに、見直しではなくて、リアルタイム線量測定システムを2,400台、撤去したいということですよ。端的に言えば。見

直しではないですよ。撤去したいと。

今までもそうですけれども、原子力行政は言葉遊びでやってこられた、そう思っています。「見直し」とかですね、そういう言葉です。でも、これは撤去です。そうすると、果たして、何かあったときに、すぐ即座に設置できるものではありませんよね。そう考えれば、最低、未来を担う子どもたちが通常いる場所、学校、保育園、そういう場所とか、それから病院、診療所、そういうところにあるものは、私は撤去すべきではないというふうに考えますけれども、規制庁のお考えを伺って、これで私は質問を終わります。

○南山総括調整官 ありがとうございます。今の御意見、2点ほどあったかと思えます。一つは、現状はここに書いてあるとおりにかもしれないけれども、未来のことはわからないので、何かあった場合に、すぐ確認できるようなためには今のを維持すべきだと。それと、見直しと言っているけれども、それは撤去ということだねという、その2点だったと思いますが、そこら辺、いかがでしょうか。

○武山監視情報課長 答えします。まずは、撤去だということで、これは、もう、おっしゃるとおり撤去でございます。先ほど言ったように、放射線監視体制を一部、その中のポストをなくすということです、いわゆる縮小する形になるわけです。「見直し」と書いていますけど、我々のほうは放射線監視体制を見直しているということで、そういう形で言ってしまったんですけれども、おっしゃるとおり、ポストの2,400台の撤去ということになります。ということの一つの提案にしているわけですね。

あとは、我々のほうで先ほど言った1F、福島第一が、これから未来の作業、どういう作業になるかということについては、まだこれからでございますので、当然ながら、どうなるかということはありません。先ほど言ったように、保証ができるのかということでございますけれども、当然ながら、先ほどの安全神話の話も含めて絶対ということはありませんので、我々としては、きちんと放射性物質が改めて飛散しないよう、いろいろ確認なり規制を行っていくわけですが、当然、それは100%かどうかということはいえませんが、そういう懸念はあることはあります。

そういうことも含めて考えたときに、いわゆる「見直しについて」と書いてある放射能観測網を維持することによって、何か事があったときに対応することができるというふうに我々は考えて、こういう形にしたいなということの一つの提案としてしたというものでございます。このポストの位置が、例えば、学校とかのほうがいいんじゃないかとかということは、そういう御意見もあるということはいくつも理解しております。これから我々の

ほうで、我々も含めて、皆さんも含めて、また町の方も含めて、どういう形でモニタリングポストというものを置いておくべきなのかということについて、いろんな御意見をいただいて、それを踏まえて見直しをしていきたいというふうに考えています。

○南山総括調整官 ちょっと今のところで「撤去」と「見直し」という中で、すみません、進行役が申し訳ないんですけども、撤去するだけでなく、配置の見直しだというのは、なぜかということなんですけれども、今現在、3,000台、県内にあるリアルタイム線量測定システムを適切な配置にしていこうと。すなわち、浜通りのまだ線量が高いところ、これから帰還を進めたいというところに要望があれば、そういったところに適切な配置をしていくということも含まれるというふうに思っておりますし。こういった意見等、地元でいただいた意見をくみ取れるものの中では、町の中でも配置の見直しということも可能性としてはあるんだと思いますので、そういう意味では「見直し」という言葉が適切なんじゃないかと私は思っておりますけれども。いかがでしょうか。今、御質問のあった方、こんなことでよろしいでしょうか。

○参加者 多分、水かけ論になると思うので、結構です。

○南山総括調整官 ありがとうございます。

では、続いて、どうぞ。

○参加者 川口高等学校の同窓会長をやらせてもらっていますアヤギと申します。ここにも子どもたちがいるもんですから、そこにリアルタイムの線量計もございますので、ちょっと発言をさせていただきたいと思いますが。

その前に、原発震災後、金山町の特産品である沼沢湖のヒメマス、御存知だと思いますけれども、これが捕獲禁止になったということです。それで、放射線量が12Bqぐらいまで上がって、その後は線量が下がって、2016年だと思いますが、下がったもんですから捕食が解禁になったというふうな経過がございます。この間、零細な沼沢の漁協がございます。そういう中で、非常に大打撃になったわけですね。非常に零細なんですけれども、それでも、やはり大変な状況、観光客も少なくなったというふうなことで、非常に大きな打撃を受けたということがございます。

それと、また、山菜、金山町は山菜の宝庫と言われておりまして、そういうことで生活をしている、昔はですね、いた方もいるんですが、最近は、それで山菜をとって生活をしているという方は少ないんですが、自家用程度にとっている方が多いんですが、そういう山菜やキノコの採取、これも原発が起きた当時は全部だめになっちゃったわけですね。最

近でも、山菜の中にもコシアブラ、これについては非常に保有力が長いというんですかね、吸収力が強いというんですか、それが線量が高いということで、これも今、食べられない状況がございまして、やっぱり注意が必要になっているということがございます。

それと、あと、もう一つが、まきを使っている家庭が結構あるんですよ。その焼却灰についても、私もまきストーブを使っているものですから、それで役場のほうに線量計が、はかるやつがございまして、簡易なやつですけども、これで毎月はかってもらっているんですよ。それで、13年、1913年当時、これは11年が被曝していますから、その当時ではかったところ4,300Bqぐらいということで、8,000Bqには達しなかったんですが、やっぱり気持ち悪いというふうなこともあって、これは自分のところで消火しないで町のほうの公益の焼却システムのほうに持って行ってもらって焼却灰を処理してもらっていたという。今でも、最近ではかったところでは、900Bq~1,000Bqをちょっと超えるぐらいでございまして。

そういう意味では、かなり減ったとはいってもやっぱり残っているということで、昔は焼却灰をいわゆる肥料と、それから中和剤、畑の、に使っていて、それで作物の生育にいいということで使っていたんですね。確かに、まいてみると非常にいいんですよ。ところが、やっぱり、これも野菜やそういう果物に使う場合は、自分でも嫌だから、これは使わないで、今も公益のごみ処理施設に持って行ってもらって高温で焼却してもらっているというのが現状でございまして。いずれにせよ、そういう生活面で大変それぞれの住民の人たちが苦勞をしているというふうなのが、ずっと続いてきたということです。

それと、あと、もう一つは地下水なんですけど、これも、私もずっと地下水を飲料水に使っているものですから、前から、原発の当時からずっと計測を役場のほうでもしてもらっているんですが、13年当時、これは年間平均で3.76ぐらいの数字だったんですが、現在はそれよりも下がっていますけれども、やっぱり季節ですとか時期によってかなり違うんですね。それで、深い井戸と浅い井戸によっても違うんですね。深い井戸のほうが何か線量が高いんですが、これ、どういうわけなのか、ちょっとわかりませんが、この辺も、測定の仕方もあると思うんですが、後から御指導いただきたいというふうに思います。

そういうことで、焼却灰とか、それから地下水のやつをずっとデータをとって、十分ではないんですが、町の測定器を使って検査をしてもらっているというふうな状況がございまして。そういうことで、これも非常な心配な部分。そのほか野菜とか米なんかの部分についても、これはJAで今、管理してやっていますから、これはほとんど大丈夫だと思います。

いずれにせよ、原発震災によって大きな、やっぱり、それぞれの地区でダメージを受けているし、観光客が少なくなったり、今、盛り返している部分もございますが、大変な状況が続いてきたことは事実であります。

それで、本論に入りますけれども、経過ばかり言ったってしょうがないから、川口高校の昇降口にモニタリングポストがございます。先ほど説明のあったように、可搬型じゃなくてリアルタイムのやつですね。それで、川口高等学校は非常に小規模校で、現在90名ぐらゐの生徒数なんですけど、それでも非常に元気で特色のある学校ということで、今、進んでおりますけれども。その当時、川口高等学校の生徒は子どもが少ないということで、私も同窓会のほうをやっていますから、そうすると、会津のほうは線量が低いと。浜通りや福島、郡山よりですね。したがって、金山町は自然環境もいいよということで、それを宣伝しながら子どもをできるだけ集めようと、定員まで、というふうな努力をやってきた経過がございます。

それで、今、県内ではいわきとか福島、郡山からも入学生が来ております。そういうことで、地元の生徒たちはもとより、ほかから来た生徒たちも、線量が低い、リアルタイムで表示をされていてですね、モニタリングポストが、それでやっぱり可視化できているということで、非常に安心して学習や部活動にまい進しているというふうな状況がございます。

それで、小学校、中学校についても、保育所についても同じなんです。先ほどクリキさんのほうからお話があったように、教育施設では保護者やそのほかの地域住民、それらの安心感の醸成ができますよね、それを見ることによって。低い、そう変わっていない、昨日とそんなに変わらないと、三日前と、そんなに変わらないというふうなことで。そういうことで、放射線教育の教材にもなっているというのが現状でございます。

モニタリングポストについては、私たちが放射線、見えないんですよ。それで、においもないと。それから色もないということで、非常に、おばけみたいなものですよね。したがって、これをやっぱり可視化できるモニタリングポストというのは非常に重要な存在だというふうに思っています。その唯一の手段でないかなというふうに思っていますので、それをやっぱり撤去すると、教育的にも、地域の可視化の材料として、縮小する時期ではないのではないかなというふうに思っています。

それから、今ほども話があったように、これから原発のデブリの撤去、それから廃炉の完了まで、どのぐらいかかるのかちょっとわかんないというふうな状況でございますから、

やっぱり、その間にいろんな事故が起きた場合、取り出し作業をやっている場合に、あるいはガスの噴射ですとかね、そういうことも含めて、あった場合に、どういうふうにしてそれに対処していくのかと。可視化するモニタリングポストがあれば瞬時にそれがわかるわけですから、そういうことで、むしろ廃止を、やっぱり存続をして、むしろ高性能のものをもっとやっぱり配置するように、ぜひ規制庁の皆さんにはお願いしたいと思う。

確かに、お金は大変だと思います、国の予算も。けども、やっぱり命とか健康とか環境をきちんと住民、あるいは市民の人たちに確保していくというのが、環境省なり、それから規制庁さんの責務ではないかなというふうに思いますので、ぜひ、そういう考えでお願いをしたいというふうに思います。

以上です。

○南山総括調整官 ありがとうございます。何点か、御意見があったかと思えます。まず、大きなところで言いますと、モニタリングポストが放射線を可視化するための唯一の方法だと。これは、ぜひ教育施設等に残すべき、こういう御意見だと思います。もう一つは、福島原子力発電所のデブリにつきましては、今後どうなるか、まだわからないので、もし事故があった場合などにどうするのか、どの程度の期間、必要なかというようなところ。それを、御意見としては高性能化して、わかるようにという御意見だったと思いますが、ここら辺、いかがでしょうか。

○武山監視情報課長 御意見、非常によく理解できます。先ほど私のほうでも申し上げましたけれども、御質問の意見の中にも、やっぱり予算の問題とかもあるということはよくわかったと。そういう意味からすると、我々も、ポストは、どちらにしても金山町さんには、今、我々の提案は、これ、3台というものになっていますけども、今後いろいろ、ほかの市町村も含めて、これから順次説明会をやりますけれども、いろんな意見を全部総括した形で、どうするかということを考えますが、そういう学校とか保育園とか、そういう子どもがいるところですね、そういうところにまず残したい、だから、今、設置している場所を、全体を見直して、例えばそういう必要なところにやると。ただ、なかなかやっぱりどうしても限りが出てきてしまうので、数とかもですね、だから、その中で、限りがある中で、どこが一番いいのかみたいなことを、少し考えながら進めていくのかなというふうに思いました。

○南山総括調整官 それから、デブリとか。

○武山監視情報課長 デブリですか。デブリは、当然、私のほうでも御説明しましたが、

まだまだこれから、作業を、どういう作業をするか、取り出しのこともまだわかりませんので、手探り状態です。だから、どうなるかということはわかりませんが、私どものほうで、例えば福島というより、福島に限らず、日本全国原発がございます。で、今、稼働しているところもありますが、そういうところで、もしそういうところで何があったときにどうしているのかというと、どうするつもりなのかということについて、ちょっと、御紹介させていただきますと。

我々のほうは、原発の周辺30kmの中にモニタリングポストを配置しています。すごく数多くですね。それは、例えば何かあったときに、その地区について避難をするという場合に、避難単位ごとにモニタリングポストを置くような形になっていまして。例えば、この何とか地区というところの人たちが、例えば何かあったときに避難する場合に、その何とか地区には1個モニタリングポストがありますみたいな感じになっていて。そういう形を、大体原発の周辺30kmに置いています。結構、密に置いているんですけども。まず、基本そういうもので、我々のほうでは、何かあったときに判断をしようと思っています。判断の基準として、例えば原発で何かあって、放射性物質が降ってきて、降ってくる最中は、やはりそのときに逃げてしまうと放射性物質をかぶってしまうので、基本、まず屋内退避ということで、ちゃんと部屋の中に入れてくださいと。おさまったら、一時移転ということで、移転をしてもらおうという考え方を持っているんですけども、その場合に、一時移転をする目安としては、 $20\mu\text{Sv/h}$ というレベルを考えています。このレベルであれば、まず、国際的なレベルと比較しても、ある程度、国際的なレベルに比べて少し低いレベルなんですけれども、そのぐらいのレベルであればということで、我々としては考えていて、そういうレベルに、実は、じゃあ、もし福島第一とか第二で何かあったときに、金山町さんのところでそのレベルまで行くかどうかというのはあると思うんですけど、これも、先ほどの安全神話じゃないですけど、100%ないかということ、難しいんですけども、でも、福島第一の原発、動いているプラントで、三つメルトダウンして、だーっと行ったというところの状態であったときに、金山町さんのほうで、じゃあ、 $20\mu\text{Sv}$ まで上がったかということ、そこまでは多分上がっていないと思うんですね。ただ、放射性物質は出てきていますので、当然影響はしているんですけど。

だから、私が何が言いたいかというと、そのときにも、一時移転という、だから、避難しなきゃいけないというレベルじゃなかったと思うんですね。ただ、放射性物質は出てきていますので、そういうところはきちっと見なきゃいけないと思うんですけど。私が言っ

ているのは、モニタリングポストというのは、あくまでもそういう、僕らのほうの原発の監視に関して言うと、そういう一時移転とか避難をするかどうかというところの一つのジャッジとして、判断をするための材料として使っているというのがあります。

だから、放射性物質が降ってきても、実はそんなにモニタリングポストに急に数字がだ一っと上がるということは、なかなか、濃度によって違うので、難しいんですけども。本当に、でも、そうはいつでも、降ってきてはいて。福島第一の事故のときも、福島に限らずいろんな、もっと幅広い県に降ってきていますので、影響も来ていますということなので。ちょっと、放射性物質の影響は影響としてきちっと見なきゃいけないんですけど。放射線のレベルという観点からすると、そういうふうな今レベルの考えになっているということをお理解いただければと思います。

これは、こういうふうなことをやっていますという御紹介だけでも。

○南山総括調整官 今の中で、原発周辺の、この資料でもありました監視ポストというのは、これは常に電源が落ちないように、それから通信が途絶えないように、これはもう、厳しく管理される放射線測定器と、別途、原発周辺に設置してあるという現状もありますので、そこら辺の違いはあるということでございます。

それから、先ほどありましたが、放射性物質の検査の話ですね、飲食物の。もしこちら辺のところ、例えば地下水が、実際はかってみると、地下のほうが高かったりするというようなことが、環境中の試料ですので、一概に高い、低いというのは言えないかと思いますが、もし何か、例えばモニタリングのほうであればと思いますけども。

○河村上席専門官 では、モニタリングのほうから若干。先ほどの御意見に対してですが、若干のコメントをさせていただきます。

確かに、そうですね、金山町さんの特産品、ヒメマスについては、淡水魚はセシウムをなかなか体の外に出さないという、淡水魚としての機能がありまして、つまり、私も県内のモニタリングデータをいろいろ見ていますけれども、ほかの地域でも、アユだったりとかヤマメとか、淡水魚からいまだにやはりセシウムが検出されてしまっているんですね。一方で、海でとれる魚のほうは、ほとんど今もう、セシウムが出なくなっているという状況がありますけど。これはやはり海水と淡水に生きている生物の体の浸透圧の違いとかで、中に入ったセシウムを吐き出しやすいのが海水に生きている海水魚で、淡水魚は、逆に、そのセシウムを取り込んじゃうと、吐き出しにくいらしくて、それで、今でも多分測定すれば検出されちゃうという状況になっているというふうに思います。



あと、キノコと山菜ですね。特にキノコなんかは、事故前からやっぱりセシウムをある程度持っているキノコがあったんですよ。これが、やはり、先ほどちょっと私も言いましたけども、過去に行われた外国の大気圏核実験のときに放出されたセシウムなんかを、いまだに取り込んでいるやつが、事故前にもありまして。なので、キノコをはかるとセシウムが出るというのが、環境放射能屋としてはある意味常識的な部分ではあったんですが、さらに、7年前のあの事故で、どんと出たやつを、当然キノコもまた吸収しちゃっているんで、レベルががんと上がって、それが今も残っているという状況にあると思います。

あと、やっぱり山菜ですと、こしあぶらとか、あと、今年の春も見てみますと、ちっちゃなタケノコといったらいいんですか、何というんでしょう、よく福島でもとられる小さいタケノコなんかからもセシウムが検出されたりという状況が今でも続いているというのが、私も認識しておりますといったところです。

あと、地下水の話なんですけど、これ、ちょっと、私はあまり知見がないのであれなんですけど、私が思うに、セシウムは土壌に沈着すると、土壌の粒子に強固にくっついちゃうので、土壌の流出と一緒に動くというふうに認識しているんですね。つまり雨が降って、泥水かなんかで土壌の粒子が流れてくると、そこにくっついているセシウムが、測定すれば検出されるという状況にあると思っています。

一方で、もう時間が随分たっていますので、水の中に溶けているセシウムというのは、ほとんど残っていないんじゃないかというふうに認識していたんですが、先ほどのお話を聞いていると、深井戸のほうが高いとおっしゃっていましたね。ここについては、ちょっと、私も知見を持ち合わせていないので、またちょっと事務所に戻ったら研究機関等にも問い合わせをしながら、ちょっと探してみたいと思っていますけど。

○南山総括調整官 どうぞ。

○参加者 すみません、ありがとうございました。

それで、先ほどお話のあった、もう一回ちょっと、質問させてください。全国レベルで、0.05~0.1の放射線量だったと、以前ですね、震災前。これ、0.05よりもっと低かったんじゃないですか。というのはね、以前は、金山町、もちろん以前は線量計がなかったんです。ただ、それまで、南会津郡の田島、ここに線量計があったんでしょうね、0.02が以前の線量だというふうなことを私は聞いていますので、その辺はちょっと、この数字が違うんじゃないのかなと思っています。

○河村上席専門官 すみません。もしかすると、そうかもしれないです。0.02というと、

私の認識ですと、北海道の一部とか青森県なんかは結構低いところがあるのは知ってはい  
るんですが、多分、今でも青森なんかは0.02ぐらいのところがあります。

これ、もともと空間線量って、皆さん御存知のとおり、0にはならないんですよ。天然  
の土壌から来る、大地から来る放射線というのがあるので、0にはならないんですが、や  
はり土壌の性質といいますか、種類によって、いわゆる天然の放射性物質を含んでいる土  
壌だと、そこではかれば当然高くなる。そういったものが少ない土壌の上ではかれば、当  
然低くなるというのはありますので。

すみません、多分、訂正するとすると、おっしゃっているとおり、もしかすると0.02～  
0.1何ぼぐらいの間にあったのかもしれないです。

ということで、ちなみに、多分、全国平均すると、大体0.04～0.05ぐらいの間が多分全  
国平均ぐらいかなと思いますので。そのプラスマイナスで、幅があったというふうに思い  
ます。

○参加者 そうだといひんです。ということは、今、0.05だと、だって普通この辺でそう  
なっても、前と同じじゃねえかというふうな状況になっていますから、0.05～0.08ぐらい  
になっていますから、金山町の場合ですね。もっと高いところはちょっとありますけれど  
も。そういう意味で、やっぱりこの数字というのは、きちっと規制庁さんのほうで捉えて  
おかないと、やっぱり十分な説明にならないんじゃないですかね。

○河村上席専門官 桁としては、多分変わっていないので、0.02でも、0.05でも、桁とし  
ては同じなので。ということで、かつそのレベルなので、そこで多分析が倍になっても、  
ほとんど影響はないというふうに思っておりますけども。

○南山総括調整官 今おっしゃられた数字の話はきちっと、私どもも確かめてやっていき  
たいというふうに思っております。ありがとうございました。

ほかにいかがでしょうか。

どうぞ。

○参加者 クロカワと申しますけど。

まず、私が、今の説明を聞いて、大きな疑問を持ったのは、一つは耐用年数と予算、そ  
れによって撤去していくんだと。結論的に言えばそういうことでしょうか。だけど、一方  
では、第二原発も廃炉の方向に進んでいますよね、今、福島第二原発。それこそ100年以上  
かかるわけでしょうか。僕も素人だからわからないけど。

それで、今まで出された意見の中で、学校とか保育園のところに設置していたモニタリ

ングポストを撤去するんだと。要するに、浜のほうで、今、地元に移管する取組をそれぞれの自治体がやっているから、こちらのほうで撤去したやつを、浜のほうにもっていきたいんだという説明でしたよね。だけど、今お二方からも質問が出ましたけど、可視化できるのはやっぱりモニタリングポストだけでしょう。しかも、子どもたちが学校で学んでいるところの、そのモニタリングポストを撤去するということでしょうか。どうしたことなんですか、これ。国、しかも原子力規制庁は、僕は国民の安全と安心を守る機関じゃないんですか。そのことを考えてください。

それで、例えば予算がかかるという問題についても、その最大の原因は、東京電力がちゃんとした津波対策をしないから、今、裁判でも争われていますけど、ああいう状態になったんでしょう。東京電力に、そういうものについては負担させる、そういうこともすべきじゃないですか、国。それで、原子力発電所の爆発によって、例えば甲状腺がんも、報道機関によると、子どもたちに増えているわけでしょう、福島で。それもまだ、はっきりした原因が究明できない状況ですけども。僕らから見れば、素人ですけど、やはりああいう放射能の爆発事故があつて、ああいう、子どもたちが甲状腺がんになって、それが毎年、残念だけど、増えてきているという現状を見ると、私は、今、この提案された見直しじゃない、撤去ですよ、については反対します。

ぜひ福島県の中でこういう苦勞をしている私たちのために、国は力を尽くしてください。よろしくをお願いします。

○南山総括調整官 ありがとうございます。耐用年数とか予算ということに対して、国民の安心安全のために放射線の可視化できる唯一のモニタリングポストという御発言がありましたけども、いかがでしょうか。

○武山監視情報課長 御意見は承りました。今の御質問の中の事実関係だけ御説明させていただきます。

まず、耐用年数ですね。この耐用年数、我々、今、耐用年数は、大体8年ぐらいが耐用年数だと思っています。それから、予算の話も言われていましたけども。今、実はこのリアルタイム線量測定システム、それから残す可搬型ポスト、これら全部、実は復興予算、復興特別会計という予算で、実は我々のほうで賄っているところです。

実は、今の法律が、どうしても今32年度末ですから、平成33年3月で、この予算が法律上切れてしまうという状況がございます。我々、当然ながら、切れてしまうと、全部これで賄っているポストの維持ができなくなってしまうので、いきなりぼんとなくなってしまう

って、そうならないために、今のうちにいろいろ我々のほうでどうすべきかということについて、いろいろ考えています。その考える中で、皆さんの御意見をこうやって聞いて、将来そういうものについてどうするかということをつなげていきたいということですので、今日はいろいろ御意見をいただきましたけども、こういう御意見を吸い上げて、皆さんと一緒に、よりよいモニタリングポストのあり方を目指したいと、こういうふうにも思っているところでございますので。

○南山総括調整官 あと、唯一の、先ほどもありましたけれども、放射線をはかる、可視化できる唯一のものというところなんですけども、そこら辺のところはいかがでしょうか。

○武山監視情報課長 先ほど私のほうで実は説明したこれですね、これ、ハンディタイプ。見えるという意味では、これで一応はかることで、見ることはできます。市町村によっては、実はモニタリングポスト、置いているポストだけではなくて、こういうもので実は校庭を測ったりとかしているところもあります。

いろいろ、そういう意味では、放射線を知るという意味では、いろんな手段があるというふう考えていまして、モニタリングポストがあって、そこに行って見るということも、それも非常にわかる話ですし、逆に、こういった手段ではかっている学校もあるということの御紹介を一応させていただければと思います。

○南山総括調整官 いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

甲状腺がんが増えている。

○武山監視情報課長 すみません。ちょっと、甲状腺がんをやっている部署が、環境省の環境保健部というところなので、ちょっと我々、実は、そちらとは全く違うところでございますけれども。

おっしゃるとおり、事故が起きて、原発事故が起きて、それに伴って、甲状腺検査というのを非常に密にやるようになっていきます。だから、それでもっていろいろ見つかったら。私も直接担当していないのであれですけども、これ、何が正しいかというのはちょっとまだ私自身はわかりませんが、検査をして見つかるんですけども、結局それが原発、その見つかったものが、よく言われている、潜在的なものなのか、要するに、どうしても潜在的にそういうものがあるという、そういうことを言われている方もいて、何かというと、原発事故とは全く関係なくて、実は甲状腺がんというのはある一定程度お持ちなんです。ただ、それが、病気になったりとかしないレベルで、実は収まっているところもあつたりするんですみたいなことも言われていますので。甲状腺がんだから

イコール全部放射線の影響とか、または、それが、例えば放射線の影響、あるいはそれが本当にがんとして死に至ってしまうようなものかというところはまた、別にあるのかなと思いますけれども。

ただ、おっしゃるとおり、事故が起きたからこそ、甲状腺の検査をし、そういうものいろいろ見つかっているということは、これは事実だと思っています。

○南山総括調整官 まあ、いずれにしても科学的な検査を積み重ねるといことは、国としてもしっかりやっけていかなきゃいけないなど。

今回、このモニタリングポストは、放射線のほうを測定する機械ですので、むしろ甲状腺というのは、内部被ばくの被ばく量に関係するかどうかというようなことだと思いますので、若干、毛色は違うかと思いますが、いずれにしても、国民の健康に対するものということに関しては、国としてしっかりデータを出していかなきゃいけないなというふうには思っております。ありがとうございます。

ほかにはいかがでしょうか。どうぞ、いかがでしょう。

○参加者 私も幾つか質問したいと思います。

先ほどの答弁でよくわかったことは、あ、耐用年数が来ているんだなということと、予算を削りたいんだなということがよくわかりました。

ちょっと、一つ聞きたいと思うのは、凍土壁というのがありますよね。あれ、どうなっているんですか、今。

○南山総括調整官 凍土壁についてよく知っている者が、ちょっとここにはいないんですけども。申し訳ございません。

○参加者 放射能の汚染というのは、無害化するまでに何千年もかかるということを聞いています。核のごみですね。放射線のごみ。あれも、それこそ地下何千mも深く埋めて、そして何千年も経たなければ無害化しないという、こんな危険なものを、安倍首相は、世界一厳しい基準でやっているとか大嘘ばかりついていますが、こんな危険なものはないわけですよ。先ほどから予算がないとか、耐用年数がどうか、そういう問題じゃないんですよ。

あなたたちに一番考えてもらいたいのは、人間の命です。子どもだけじゃありません。人間の命です。この金山町は、ほとんどが山林ですよ。山の除染をしたんですか。何もしていないでしょう。みんなね、黙っていますけど、大変な被害を受けているんですよ。一生懸命野菜をつくって、お米をつくって、子どもに送りたい。でも、「お母さん、要らな

いよ」って。こんな悲しいことありませんよ。本当にね、ここに住んでいる人たちは、雪国で、半年間雪の中に閉ざされて、我慢に我慢を重ねて生きているんです。でも、ここが好きなんです。この自然が。それを、東京電力は汚して平気なんですよ。何をとぼけているかって私は言いたいですよ。

先ほども出たように、100年、200年、未来永劫にそんなものはきちんとするべきです。この日本全国の核の、放射能の原子力発電所、全部なくすべきです。福島原発の事故によって、ドイツは原発ゼロを目指したんですよ、決めたんですよ。なぜ当の日本がそういうことをやらないんですか。本当にね、私はとぼけていると思います。そこら辺、あなたたちはどうお考えですか。

○南山総括調整官 多分になかなか、この範囲を超えた御質問があったかと思いますが。もしあればと思いますが。

○武山監視情報課長 なかなか難しい話なんですけれども。我々、原子力規制委員会ですね、原子力規制庁は、原子力を利用する場合に、その安全を規制するという立場でございます。原子力利用そのものをするかしないかということについては、実は我々だけで決められる話ではなくて、むしろ国会も含めて、国民的議論が要するというふうに考えています。

ただ、今の政府、あるいは国会もそうなんですけれども、今、法律が国会で決められているわけなんですけれども、その法律上は、原子力の利用ということについては否定をしていないことになっていますので、我々はそれを前提に立って仕事をしていますということしか今お答えできません。

○南山総括調整官 あと、すみません。いわゆる核のごみの話とか、ちょっと、そこら辺も、今日のメンバーで答えられるところはないと思うんですが。山の除染のところに関しては、モニタリングのほうとしては、何か今、知見みたいなものはあるんですか。

○河村上席専門官 山の除染ですか。おっしゃるように、確かに山林に降り積もってしまった放射性物質は、一部、浜通りのほうでやっているところもありますけれども、こちらのほうは全然やっていないですよ。その辺は、環境省の絡みもあると思いますので。やはり山の中、私もあちこちで測定等はしておりますけれども、当然、山とか草地といいますか、そういったところの線量は高いのはわかってはおりますので。ただ、除染をするといっても、範囲が広いのと、どうしても山の中ですので、なかなか難しいところがあるというのは認識として持っておりますけれども。

○南山総括調整官 例えほどの程度のレベルなのかということ測定できるものはあるわけですね。今日あるようなサーベイメータとか。

○河村上席専門官 サーベイメータもモニタリングポストも、その場の空間線量、線量をはかっているだけです。なので、もしそこに、土壌にたまったセシウムをはかろうとすると、また別の機械を持ってきて測定をしないと、ちょっと。サーベイメータだけでは、あくまでもその空間の線量しかわからないのでということになってしまいます。

○武山監視情報課長 すみません。多分、山を除染するのはなかなか難しいと思っています。当然ながら広い。今、環境省とかでやっている除染というのは、基本、市街地、どうしても限られてしまうということになります。じゃあ、全く何も国として、じゃあ、山について何もしていないかという、我々、実は、規制委員会のほうでは、航空機モニタリング、飛行機でモニタリング、放射線をはかっています。どうしてもモニタリングポストを山の中に置くことができないので、電源の問題とかあります。そうすると、結局山がどの程度汚染しているかということについては、上空、飛行機でヘリコプターを飛ばして、上空から放射線のレベルというのを測定するというのを毎年やっています。それをもって、一応測定はしています。

ただ、おっしゃるとおり、測定はしていますけれども、やはり高いところはまだあります。そういうところは、ずっとまだあることはわかっています。我々としては、その測定をして、その測定の結果を毎年公開していますけれども、そういうものを継続して、今の放射線レベルってこのくらいなんだということについて発信をしているということをやっているところでございます。

○参加者 要するに、放射能というのは、先ほども出ましたけど、目にも見えない、においもしない、色もない、わからないわけですよ、ね。こんな危険なものは、本当に一刻も早く全廃しなければならぬんです。それができないんだったら、こんなの撤去するとかじゃなくて、もっと充実させて、本当に安全を、今後とも住民の安全を守るために、ぜひそういう仕事をしてもらいたいと思います。

そして、ここはクマが大層出るんですよ。クマがそんなに出るんなら食糧に、捕まえて食べたらいいんじゃないかと思ったんですけど。クマも食べられないんだそうです、放射能が高くて。そういうことなんですよ。

過疎地です。子どもや孫に来てもらいたいと思ったら、お母さん、放射能のあれが怖いから、行かれないと。あなたたちは、ここは低いなんて平気で言いますが、低いなんて、

そんなこと簡単に言えるような問題じゃないんですよ。現実がそうなんですから。よく考えてください。

○南山総括調整官 ありがとうございます。

クマの話って、いいですか。

○河村上席専門官 クマもそうです。おっしゃるとおりですね。クマ肉をはかると、やはりセシウムとかいまだに出てきています。

あとは、やはり野生鳥獣で言うと、高いのはイノシシですかね。イノシシもやっぱり、同じようにいろんなものを食べている中で、体の中にまだセシウムがたくさんたまっている個体が毎年検出されておりまして、ということ。

クマとイノシシで比べると、イノシシのほうがレベル的には高かったりもするんですが、恐らく生息する個体数とかそういった関係もありますので、一概には言えないと思うんですけど、クマからもやはりセシウム等は検出されているという状況は把握しております。

○南山総括調整官 いずれにしましても、国として、規制庁も含めて、引き続きそういったデータをきちっと出して、安心していただくというようなことに資するための活動は一生懸命やっていきたいと思っております。ありがとうございます。

そのほかにいかがでしょうか。

○参加者 もう一つ、いいですか。お金の問題で言いますと、六ヶ所村の核燃料の再利用とかの、何の役にも立たないところに何兆円も使っているんですよ。そういう馬鹿なことをやっていないで、この住民の安全を守るために、東京電力も国も全力を尽くしてもらいたいと思います。

以上で終わります。

○南山総括調整官 国としましても、引き続き頑張っていきたいと思っております。ありがとうございます。

どうぞ。

○参加者 すみません、もう一つほど、お願いしたいんですが。隣の昭和村の関係でちょっとお伺いしてもよろしいでしょうか。

先ほどの資料の中で、昭和村さんは、可搬式のやつが1個というふうなことだと思いますが、以前も、それだけではなかったんじゃないかなと思うんですが。話によりますと、いわゆるリアルタイムのモニタリングポストが撤去されたというふうな話がありますけれども、これについて事実経過があればちょっとお伺いしたいと思います。



あと、もう一つは、もう一つ、これはちょっと金山町さんのほう、ちょうど今日、副町長さんがおいでですからお伺いしたいんですが、7月14日の地方紙の民報新聞に、モニタリングポストの撤去方針について、金山町の判断については賛成というふうになっています。賛成が福島県内で、檜枝岐と金山町と鮫川でしたっけ、この三つだったんですよね。非常にこれは重要な課題を、やっぱりどういう経過で賛成になったのかということです。新聞報道のとおり、反対が25町村、どちらとも言えないが23町村、住民の意見を聞いて判断するが6町村、選択せずが6市ということで報道されていますが。これ、町としての現状認識だとか、住民や子どもの考えも考慮した慎重な判断が必要だったのではないかなというふうに思います。町民としては、非常にこれ、理解に苦しむ判断をしたなというふうに思っていますが、この辺の見解をお伺いしたいと。規制庁さんと、それから町のほうにお願いしたい。

○南山総括調整官 昭和村の件、もし何かわかれば。何かデータを持っていますか。持っていないですか。

○武山監視情報課長 すみません。ちょっと、昭和村のことは、今データがないのでわからないんですけども。ただ、一般論ですけど、一般論というか、リアルタイム線量測定システムの、過去に撤去したものがあのかということについては、それはあります。それは何かというと、もともとリアルタイム線量測定システムは、学校とか幼稚園とかにつけていますので、例えば学校がなくなってしまう、統廃合とかでなくなってしまうとか、あるいは幼稚園がなくなってしまうとかという、そういうケースのときは、当然ながらその土地はもう、使えないので撤去すると、こういうことはございます。だから、そういうものは、実は過去も幾つかありましたので、もしかしたら、そういうものなのかもしれません。ちょっとそこはわかりませんが。すみません。昭和村のデータが、今、私の手元がないのでわからないんです。ちょっと、今日、この町のことをやるということなので、すみません、申し訳ないです。帰って調べればわかりますので。ということです。

あと、民報のアンケートの話ですかね。ちょっと私のほうから、規制庁のほうからはなかなかお答えできないんです。すみません。ちょっと、じゃあ、お願いします。

○金山町 それでは、アヤギさんの御質問にお答えいたします。

町として、福島民報社のほうから来たアンケート調査に対しましての回答の記事が掲載されたわけでございます。その判断過程につきましては、庁内で検討した上で、そういった回答をさせていただいたと。

町として考えたのは、やはりこのモニタリングポストであったり、可搬型モニタリングポストであったり、リアルタイム線量測定システムと。現在、先ほど原子力規制庁さんからも説明があったように、金山町としては数値が安定していると。これは目に見えて明らかであると。しかしながら、全てを撤去という条件ではございません。リアルタイム線量測定システムよりも性能がいい、より密にはかれる可搬型モニタリングポストは、3カ所残ると。じゃあ、その3カ所はどこに残るんだと考えたときに、まず町役場は中学校、小学校が近くにございます。もう1カ所は玉梨、もう1カ所が、今、大塩の体育館、この3カ所でございます。

例えば、町として考えたのは、やはりそうはいつでも、町民の安全安心、最たるはやはり子どもですよね。子どもさんたちをどうするか。そういった意味も含めて、例えば大塩体育館にあるものを、横田小学校に移せないかとか、そういったのは今後の御相談かなど。いうなれば、何ていうんでしょうか、町としてそういった判断を差し上げたのは、やはり民報社から町に対するアンケートという中でお答えしたと。その答え方としては、全ての撤去ではないと。いうなれば、3台は残ると。3台残る高性能のものがどこに今置いてあるか。まさか山の中にあって、誰もそんなところは行かないよといったところではございません。そういったのが、先ほど言った3カ所にあるということで、そういった、あと、先ほど言った唯一小学校でないところ。そうはいつでも、今、皆様からお話が出ている保育所であったり、病院であったり、そういった施設の近くにはございません。

やはり今日の規制庁さんからも初めにあった今後について、皆さんと一緒に考えると。これはやはり町民の安全安心、よりよいモニタリングのためには、ただあるだけじゃいけないと。じゃあ、それを生かして、どういう配置にすべきか、どういう体制なんだ、いざというときの避難はどうするんだ。子どもが、そのモニタリングポストを見て何を感じるか、放射線教育ですね、そういったところも含めて考えていく必要があると、そういった機会かと思しますので、町が先行してやったという記事は、かなりインパクトを与えて、御心配をかけたことについてはお詫び申し上げますが、短絡的に撤去賛成ということではないということだけ御説明させていただきたいと思ひます。よろしくお願ひします。

○南山総括調整官 先ほどの昭和村の件、今、データが出たみたいです。

○伊藤係員 昭和村の件ですけれども、当時、多分、昭和村には5台リアルタイム線量測定システムが設置されていたかと思うんですけれども、平成27年に、冒頭でちょっと紹介があったかと思うんですけれども、県でもリアルタイム線量測定システムをつけて測定をしてい

るといところで、そのリアルタイム線量測定システムを配備するに当たって、例えば施設が廃止になったとか、もう人がいないようなところについているとか、そういったところを、不要と考えるようなところを市町村に照会しまして、ここは要らないですよというところの回答があったものについて、こちらで県に無償で貸し付けて、県で測定するリアルタイム線量測定システムの配備の活用をさせてもらっているというところが、実際のところなんです。なので、昭和村で設置されていた5台については、設置場所は変わりましたが、福島県内、ちょっと設置場所までについては、県で設置しているものですので、把握していないですけども、無償で貸し付けて活用させていただいているところでございます。

○南山総括調整官 よろしゅうございますでしょうか。

○参加者 それで、この間ちょっとその話を聞いたものですから、昭和村の役場に私行ってきました。そして、企画係長ですかにお話をしたらば、保育所とすみれ荘と小中学校、キャンプ場、これがあったんですが、これについては全部撤去したと、撤去されたというかね、そういうことを言っていました。したがって、これ、今残っているのは、昭和村の役場前のところ1カ所なんですよ。というふうな話でした。だから、今のほうで貸し付けしているというお話がありましたけど、それは実際ないんじゃないですかね。ありませんかね。

○伊藤係員 今、ちょっと手元に無償貸し付けしている借用書とございますか、そういったものがございます。その中に、昭和村の5台ですね、リアルタイム線量測定システム5台がございまして、当時の設置場所でございますと、昭和村立昭和小学校、昭和村保育所、また、昭和村立昭和中学校、それと、おっしゃっていただいたすみれ荘、あと、昭和の森キャンプ場というところの計5台を福島県に貸し付けて、再設置、有効活用させていただいているところでございます。

○参加者 設置しているということですね。

○伊藤係員 はい、そうです。

○参加者 今日の放射線モニタリング情報は、環境省で出しますよね。そうしたら、昭和村は1カ所の役場前しか出ていないんですよ。これはやっぱり何かの手違いなんですかね。

○伊藤係員 いや、ちょっと説明が足りないところがあって、申し訳ございません。再設置している場所というのは、昭和村の中で再設置しているわけではなくて、中心となって

いるのは、浜通りのほうに再設置させていただいているものでございます。

○参加者 ……。

○伊藤係員 はい、そうです。現在は、おっしゃるとおり、可搬型1台のみでございます。

○参加者 やはり、これも説明会やなんかは昭和村はやらないんでしょう。いずれ、これ、昭和のこと、金山の分じゃねえから、あまり心配してもしようがないんだけど。ただ、これ、平成27年でしょう。今回、規制委員会に出したのは、今年の2月、3月ですよ、方針を出したのは。その前に撤去して持っていっちゃっているんだよな。今、経過を聞くと。それはちょっとおかしいんじゃないのかということなんだよな。方針を決める前に持っていっちゃったわけだから。確かに町村の、これ、理解やなんかはいただいたのかもしれないけども、住民の人たち、おかしいねとは言っているんですよ。なんで持っていったんだというふうなことで。

○武山監視情報課長 御説明しますと、今回の方針というのは、実は、もともと、だから先ほど私が言ったように、リアルタイム線量測定システムは、学校、保育園、幼稚園につけて、子どもの環境の放射線を見るということだったので、実は学校とか保育園がなくなってしまったら、もうそれは使命がないということで。それで、そう考えて、村も結局要らないという判断をされて。じゃあ、それは撤去するわけですけども、でも、それを県のほうにお貸しして、県のほうで実は別のところで使っているという、こういうことになっています。今回の方針というのは、実は学校とか保育園とか幼稚園とかはまだあるんだけど、もう線量が低くて安定しているというところについてはどうなんですかねという方針でございますので、もともとそういう施設がなくなってしまったら、もうそこは、その施設にそもそも、例えばその土地自体がもう、誰かの人の手にわたってしまったとかすると、どうしてもそれは撤去せざるを得なくなります。だから、そういうことで撤去しているというものは、過去いっぱいあります、それは。

○参加者 ……。

○武山監視情報課長 それは、結局、村が要らないと言われてしまって、こんなの要らないよと言われてちゃったら、我々は撤去せざるを得ないわけです。なぜかというと、我々は、県なり村に対して、もともと立てるときに、立てさせてくださいとって立てたわけですけども、それは当然ながら、村として、ここに立てていいよ、あそこに立てていいよと言われてるものですから、それでもって我々は立てています。それで、そこからもう、いや、もう撤去してくれと言われてたら、それは撤去せざるを得ないという、そういうことに

なりますので、そこは御理解いただければと思いますけど。

○参加者 まあ、他町村の問題だから、あまり深くは入りませんが、そういう状況でちょっとやっぱり不可解な事案だなというふうに思いましたので。

それで、あと、町のほうですけども、副町長から、今さっきも答弁がありましたけど、やはり現状認識がちょっと、一般から見れば、甘いんじゃないかなというふうなことで。例えばまちの議会とか、あるいはそういうところから意見を聞きながら、どうだろうかということや打診しながら、その意見を聞いて、それから回答をするというふうなこと。時間がなかったのかもしれないですけども、それはやっぱり、ほかの町村がやっているように、あれですよ、即回答するんじゃなくて、あるいはどちらとも言えないとかいうような形で、やっぱり回答しておくほうが、賢明なやり方になったんじゃないかなというふうに思いますので、今後のこれからのいろんな行政もあると思いますから、そういう意味では、非常に重大な課題については、そういうふうな慎重な取り扱いをしてもらいたいというふうに思います。

私からは以上です。

○南山総括調整官 ありがとうございます。

ほかによろしいでしょうか。

(なし)

そうしましたら、時間にもなったようでございますので、本日のリアルタイム線量測定システムの配置の見直しに関する住民説明会につきましては、これにておしまいとさせていただきます。

大変、長時間にわたりまして、活発な御意見をいただきまして、大変ありがとうございました。